

共通開講科目(双方向遠隔授業) 社会学B(現代農村の社会学)／福井大学

科目名/提供大学名	社会学B(現代農村の社会学)／福井大学【双方向遠隔授業メイン配信地: 福井大学】
科目名(英文)	Sociology B (Introduction to Contemporary Rural Sociology)
対象学年	原則として、全学年。
開講時期	後期・月曜1限目(8:45~10:15)
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「社会経済・科学技術分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	伊藤 勇
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	i-ito@u-fukui.ac.jp
概要	本科目は地域を志向した教養科目として、農村社会学の分野から、「家」と「村」の持続と変容、農への新たな参入者たち、食と農をめぐる都市農村関係、農業・農村の価値づけなど、現代日本農村の課題に関わるトピックを取り上げ、それらに関する社会学の視点や研究知見を紹介・解説する。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・農村社会学について基礎知識を得る。 ・現代農村の現状と課題について基礎知識を得る。 ・社会学の発想や視点の特長について基礎的理解を得る。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input checked="" type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農村問題への興味・関心が高まる。 ・農村社会学の基礎概念について初歩的理解を得る。 ・社会学の発想や思考法に馴染む。
授業計画・授業内容	第1回: カイダンスと序論 授業の概要・進め方・成績評価法の説明 序論: 社会学とは、農村社会学とは 第2回: 現代日本の農業・農村 世界の農業、日本の農業、現代日本の農業・農村の動向(統計的把握) 第3回: 「家」と「村」の現在(1) 日本社会を構成する4つの縁、「家」と「村」の持続と変容、農業集落の変貌 第4回: 「家」と「村」の現在(2) 家族農業の普遍性、日本の兼業家族農業、福井の「兼業稲作」 第5回: 「家」と「村」の現在(3) 農の危機と「家」・「村」、農村女性起業の意味、集落営農と新しい共同 第6回: 「家」と「村」の現在(4) 「限界集落」問題をめぐって、限界集落の社会問題化、農山村再生への視点 第7回: 農業・農村への参入者たち(1) 「田園回帰」の新動向、多様な新規就農者たち、参入者の可能性と課題 第8回: 農業・農村への参入者たち(2) 若者の地方志向と地方、地域サポート人材制度、「地域おこし協力隊」の意義と課題 第9回: 食と農をめぐる都市農村関係(1) 都市農村関係の新展開、グリーン・ツーリズム(GT)の登場と展開、GTの意義と課題 第10回: 食と農をめぐる都市農村関係(2) 活況を呈する農産物直売所、直売所拡大の社会背景、直売所の諸類型、地産地消と直売所 第11回: 食と農をめぐる都市農村関係(3) 社会運動としての有機農業運動、「提携」の哲学、環境保全型農業との区別と関連 第12回: 農業・農村の価値づけをめぐって(1) 貿易自由化論と農業保護論、農学における価値論、政策・外交における価値論 第13回: 農業・農村の価値づけをめぐって(2) 「農」に対する都市とメディアのまなざし、農業・田舎暮らしブーム、ブームの評価 第14回: 農業・農村の価値づけをめぐって(3) 当事者に聞く農の価値、「福井お百姓インタビュー」の知見から 第15回: 農業・農村の価値づけをめぐって(4) 農を価値づける言葉と人生経験、エピソードを通じた価値の再認識 おわりに: 農業・農村の明日に向けて
授業方法	講義形式の授業だが一方通行の授業を選けるため、受講生全員が毎回短い感想メモを提出するとともに、毎時間の終わりにコメンテーター役に指名した受講生と教員とで口頭質疑を行う。
キーワード	社会学入門、現代農村、家と村、都市農村関係、農の価値
教科書	教科書: 特に指定しない。適宜、参考文献や資料を配付する。
参考書	梶淵俊子ほか『食と農の社会学』ミネルヴァ書房。
評価方法・評価基準	成績評価には、①毎回提出する授業の感想メモおよび出欠表、②中間レポート、③期末レポート、計3種類の提出物を用いる。配点は、修学態度(①など) 20%、中間レポート(②) 30%、期末レポート(③) 50%。
関連科目	
履修の要件	
必要な事前・事後学習	予習: 毎回、予告された次回テーマ・トピックについてWebや参考書等により予習してくる(1時間程度)。 復習: 授業内容を復習し、疑問点を整理すること(1時間程度)。
その他・注意事項	